

関連項目：教育活動プラン①

「わかる・できる・楽しい」言語活動を推進する

目的

これまでのパターン化された学習は、児童にとって受動的な学習になり、関心や意欲を高めにくいものとなっていた。また、学習状況調査の分析により、授業が分からない子どもが、学年を追うごとに増えているという傾向も明らかになった。

こうした実態から、言語活動を充実させ、児童の主体的な調べや表現活動を活性化させることで、生活の場に生かすことのできる力を付けていくことにした。特に国語科において、「読む」「書く」「話す・聞く」を関連させ、読解力・表現力を育成することを中心に取り組んだ。

内容

●楽しい言語活動の設定

単元構想に児童の興味や関心、目的意識が高まるような効果的な言語活動を設定することにより、学び手側の思いを大切にしていこうとした。教える側の思いと学ぶ側の思いのバランスを保ちながら、「言葉をとおして学び方を学ぶ」場を創り出していこうと考えた。このような「学びの場」で「学び方」を体得させることは、学習者の成就感にもつながり、児童の主体的な活動の基になると考えた。言語活動の設定に当たっては、プロセスシートを作成した。これは、プロセスを追って考えていくもので、児童の実態に合わせ、付けたい力を明確にした言語活動が設定できるように工夫したものである。

●わかる言語活動への支援

「わかる」ための支援として、「比較」「見える化」「体験」の3つの視点を取り上げた。ここでは、「見える化」の一つとして、学習ナビの実践を紹介する。

単元導入時に「学習ナビ」を作成し、単元の流れを理解して学習活動に取り組むことができるようにした。その時間に学習することが、言語活動のゴールにどのようにかかわっているかが明確になるため、児童の意識がゴールに向かってつながっていくことをねらっている。

「学習ナビ」を常に見えるところに掲示し、活動を確認することで、目的をもって本時の学習に取り組むことができた。

**「サラダでげんき」がくしゅうナビ**

- ①めあて「サラダでもっともっとげんき」のかみしばいをつくって、ともだちやようちえんのともだちにはっぴょうしよう。
- ②りっちゃんのみもちをかみしばいにかこう。
- ③どうぶつたちのみもちをかみしばいにかこう。  
**ねこ いぬ すずめ あり うましろま**
- ④ちがうどうぶつをいれてみよう。
- ⑤あふりかぞうのみもちや、つづきはなしをかみしばいにかこう。
- ⑥ようちえんで、はっぴょうかいをしよう。

●できる言語活動への支援

「できる」ための支援として、「ワークシート」「辞書・語彙表」「型・モデル文」の3つの視点を取り上げた。ここでは、「語彙表」の実践例を紹介する。

物語文「お手紙」(2年)の学習で、なりきり音読台本を作る言語活動を設定した。右に示す語彙表を参考にさせることで、登場人物の気持ちを豊かに想像させることができた。また、自分の思いを自信をもって表現することへの手立てとなった。

**気持ちをあらわすことば**

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
を	り	み	ひ	に	ち	し	き	い	う
と	さ	か	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
し	し	き	い	い	い	い	い	い	い
と	そ	こ	お						

成果

「わかる・できる・楽しい」言語活動の推進により、子ども一人一人の学習内容の確実な定着が図られるようになってきた。また、学習に見通しがもてることで、自分の活動に自信をもち、意欲的に調べたり表現したりする児童の姿が多く見られるようになってきた。さらに、聞く・話す・書く等の表現力の向上も見られ、そのことが、お互いを理解しあい、認め合うという人間関係の深まりや、学級、学年としての集団意識の高まりにつながってきている。